

令和8年度神石高原町立神石小学校経営方針

1 学校教育目標

自ら伸びる子・共に生きる子の育成

・自ら伸びる子

アイデンティティ（自尊心・自己肯定感）をもち、自律（自ら考え自分の行動を振り返って）し、失敗を恐れず「ワクワク」しながら課題解決に挑戦する児童を育てる。

・共に生きる子

教育は、教職員、保護者、児童、地域等、児童を取り巻く人・社会・文化とのかかわりによって行われる。教師は意図的・計画的に児童と他者との関わりの場を設け、児童が他者との関わりの中で、互いの知恵を出し合い、創造し、共に楽しむことができる児童を育てる。

2 学校経営理念・方針（ミッション・ビジョン）

教育に係るマネジメント

（１）人を育てる人が育つ学校 < 教師 >

・教職員は最大の教育条件である。教える立場にあるもの自身が、今この瞬間も児童及び学級集団から学ぶ当事者であるという立場で教育するとき、児童は学びへの意欲をもち、主体的に学ぶことができる。教育のプロ（職人）として、「教える」だけでなく、児童と共に学ぶ当事者として、「トライ・アンド・エラー」を自ら体現できるプロ（職人）でありたい。

・児童のポジティブな行動を支援する（PBS）考え方が、児童の成長を促すことを念頭におき、「事前の工夫」「行動への支援」「価値付け」を組織的に言い、温かさのある中でも高め合える集団を育てる。

・「倫理観と人間性を磨き、自ら新たなものを創り、一段高い目標に挑戦する教職員」「社会や児童の変化に柔軟に対応し、連携・協働して組織的に職務遂行できる教職員」「豊かなコミュニケーション能力をもち、自らの職能伸長を第一とする教職員」になるためにも、教職員は、健康な姿で児童に対する時間を確保したい。全教職員が、校内外の業務改善を図り、勤務時間外労働時間を減少させることは、わたしたち教職員の使命である。

（２）児童の姿で教育を語る学校 < 児童 >

目の前の児童の現実是指導の現実である。教師の教えたいことが児童の学びに転化される教育の理想を追求するために、児童の姿で教育を推進する教師（学校）でありたい。教職員として、「児童の姿は指導の結果」であることを誇れる教育を創造する。

(3) シンプル イズ ベストが定着した学校 < 高い質 >

簡潔で整理された場・時・礼節は、児童にとって最高の教育環境である。

教師の言葉の力を磨き、表現を美しく簡潔にし、心を伝える。

時間意識・コスト意識をもって業務を改善しながら働き方改革を進め、児童も教職員も「ワクワク」できる最大の教育活動を創造する。

3 学校経営目標

組織に係るマネジメント

知を創造し、挑戦する学校

(1) 重点プロジェクト

ワクワク「トライ」「みんなが主役」プロジェクトの推進

※児童も教師も失敗を恐れず楽しみながら挑戦できる（トライ・アンド・エラー）教育活動を、組織を挙げて支援する。

※ポディティブな行動を支援することにより、次へのやる気を喚起できるよい循環を創る。

(2) ミドル・アップダウンによる組織運営・管理をめざす。

※主任層が、目的をもち、職員が計画的に組織的に取り組むことができるようにする。

※主任層が、取組の進捗状況を把握し（評価し）、次への改善策について助言する。

(3) DCAPサイクルによるカリキュラムマネジメントを実施する。

※担当者が、アイデアを出し、失敗を恐れず様々な取組に挑戦する。

※取組の振り返り（評価）を分掌等で行い、次への改善策を考える。

※次回・次年度に向けての取組案を、早めに企画する。

(中期経営目標)

- ① 授業力を向上し、基礎・基本を確実に習得し、学びを自ら創り振り返り、活用しようとする力を育てる。（知）
- ② 他者と共に、よりよく生きようとする豊かな心を育てる。（徳）
- ③ 目標に向かって、体力の向上・健康維持に努めようとする心身ともにたくましい体を育てる。（体）
- ④ 児童・保護者・地域に信頼される開かれた学校を創造する。（信頼）

4 めざす学校像

児童も教師も自らの学びを自己調整しながら、成長を喜び合う学校

知：基礎・基本を確実に習得し、学びを自ら創り振り返り、活用しようとする力を育てる学校。

徳：他者と共に、よりよく生きようとする豊かな心を育てる学校

体：目標に向かって、体力の向上・健康維持に努めようとする心身ともにたくましい体を育てる学校

（道徳）重点課題 学校：善悪の判断、自律、自由と責任・希望と勇気、努力と強い意志

・伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度

※低：善悪の判断、自律、自由と責任・親切、思いやり

※中：善悪の判断、自律、自由と責任・希望と勇気、努力と強い意志
相互理解、寛容

※高：善悪の判断、自律、自由と責任・希望と勇気、努力と強い意志
・相互理解、寛容・国や郷土を愛する態度

5 めざす子供像

令和8年度キャッチフレーズ

「宝物」を探しに、レッツ・トライ!!

○自分から一歩踏み出そう！（失敗してもいいじゃないか）

○ともに知恵を出し創り楽しもう！（いつでも協力・相談）

○地域に世界に発信！伝えるぞ!!（もっと多くの人を仲間に）

「宝物」とは、新たに発見した学びや試行錯誤の過程、やり遂げた時の感動である。それらを探しに行く活動は、きっとワクワクし、楽しいものであると確信する。

児童が課題解決をしていく中で、乗り越えなければならない壁はいくつもある。その壁を乗り越えるために試行錯誤すること。失敗や成功を繰り返すこと。一人では解決できないこともだれかの力を借りながら乗り越えること。自分の力で、または、だれかとともに協力しながら課題解決をしたこと。これらの過程すべてが、「宝物」である。

さらには、課題を乗り越え解決した時の「できた」「わかった」を実感した喜びは格別である。反対に課題解決の途中の悩みなどの感動も成長の過程では、児童にとって大事な「宝物」である。そして、この感動は、決して、楽をしたのでは得られないものである。私たち教職員は、これらの「宝物」に子供たちが出会えるように指導・支援することが、大事な役目だと考える。

そのためにも、取りかかりとして、児童も・教職員も、失敗してもいいので、「自分から一歩踏み出す」勇気を出す気持ちをもつことを大事にし、自分の力では解決できない課題に対しては、いつでも協力・相談し、「ともに知恵を出し、創り、楽しもう」という雰囲気づくりを行い、学んだことをより多くの人に伝え、将来的には、「地域に世界に発信！伝えるぞ!!」という活動を仕組み、皆で自分の活動を誇りに思い、より多くの仲間自分たちの活動を知ってもらうことで、自己有用感・自己肯定感を高めていきたい。

このような営みを繰り返し、自分の学びを自己調整しながら、共に成長を喜び合いたいものである。常に大きな夢・高い目標をもち、それに向かって果敢に粘り強く**挑戦し続ける**教職員と子供でありたい。「自分はできない」「やっても無駄だ」「考えてもわからない」と考えやすい児童を、教職員が身をもって**前向き**にさせ「やればできる」と思わせながら、子供と共に自己実現を図っていく。

教育は刹那、刹那の**感動**をつくることである。教育活動の中で一瞬一瞬の深い感動をいくつも児童と一緒に味わいながら教育活動を続けていきたい。

未知の課題に柔軟に考え、おもしろがって挑戦する「かしこい子」

自ら課題を見つけ、自らの考えを柔軟にもち、協働して解決する子

知識をひたむきに求めることをおもしろがる子

課題解決に向けて、試行錯誤できる子

失敗を恐れず、自分の思いを表現できる「さわやかな子」

相手の話を集中して聴く子

自分の考えを自分の言葉で表現できる子

さわやかなあいさつや返事などの反応ができる子

粘り強く挑戦する「たくましい子」

目標をもち、達成にむけて進んで粘り強く努力する子

生き生きと活動し、全力を出し切って感動を味わう子

当たり前のことを当たり前にやりぬく子

【育成する資質・能力】

- ・主体性：自分で課題を設定し、解決しようとする意欲
- ・アイデンティティ：自他のよさを認め、自ら自信をもって調整する力
- ・コミュニケーション能力：友達と考えを共有し、共に高め合う協働性・表現力

6 めざす教職員像

- 社会や児童の変化に柔軟に対応し、倫理観を磨き、自ら新たなものに挑戦（トライ）する教職員
- 豊かなコミュニケーション能力をもち、組織的に連携・協働できる教職員
- 「失敗しても許される」雰囲気づくりを行い、児童の挑戦を価値付ける教職員

7 本年度の重点課題（短期経営目標）

【確かな学力】

- ◎授業力を向上し、基礎・基本を確実に習得し、学びを自ら創り振り返り、活用しようとする力を育成する。

- ・国語科を中心とした研究を推進し、児童の主体的な学習の習得に向けた授業改善を図る。

【課題、目的を意識付け・任せる・評価する】

【豊かな心】

◎自分に自信をもち、他者と共に、よりよく生きようとする豊かな心を育成する。

- ・失敗が許される学級経営・人間関係づくりの取組を推進する。
- ・相手意識をもったあいさつ・返事や心の交流が促進される取組を進める。

【道徳教育、読書活動の充実・ポジティブな行動】を評価する】

【健やかな体】

◎目標に向かって、体力の向上・健康維持に努めようとする心身ともにたくましい体を育成する。

- ・努力が結果となる体験を通して、児童の体力向上の意欲を高める。
- ・生活の基盤となる確かな生活習慣を身に付けさせる。

【目標の共有・日常的に評価する】

【信頼される学校】

◎地児童・保護者・地域に信頼される開かれた学校を創造する。

- ・地域への関心・貢献の意欲を高める。

【地域教材・人材を活用する・地域に発信する】

- ・児童・保護者・教職員が安心して安全な学校生活ができていると実感する取組をする。

【丁寧な対応をする】

8 教育研究・授業改善

【研究主題】

考えを伝えあい、学び合う子どもの育成 —交流を充実させる授業づくりを通して—
